

令和5年度 学校評価書

学校名 (東温市立上林小学校)

1 学校の教育目標 自己をひらき、ともに学び、たくましく伸びゆく、上林っ子の育成

2 経営の基本方針 “ふるさと上林” に生きる自分に誇りと自信をもち、「人・もの・こと」との関わり合いを通して、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。

令和6年1月31日

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方策	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	○ いじめを許さない毅然とした指導と、適切な教育相談等を通した不登校への予防的取組ができた。	3.8	3.9	3.6	○ いじめ・不登校対策等への対応については、教職員が0.4、保護者は0.1ともに上昇した。積極的な児童理解に努めるとともに教職員が共通理解を図りながら、保護者の支援にも継続的に取り組んでいる。また、毎月のアンケートと教育相談の実施、毎週職員会や終礼にて情報共有等を行い、組織体制を整えていじめ防止、早期発見と早期解決に取り組んでいる。人権参観日にはいじめをテーマに授業公開を行うなど、家庭や地域と連携しながら人権意識を高める教育活動も行っている。 ○ 基本的な生活習慣の定着については、教職員の評価が0.1上昇し、児童の評価は0.1下がった。教職員は人権・同和教育に関する研修会を実施し、職能成長に努めた。日頃から挨拶や言葉遣いについての指導を重視している成果であると考ええる。 ○ 望ましい行動様式については、教職員が0.3、保護者が0.1上昇した。毎月の生活目標をもとに具体的に取り組む目標を各学級で児童自身に考えさせており、子どもの成長が見られている。	・コロナの5類への移行により、様々な方と接する機会が増え、子どもたちの挨拶する姿をよく目にしますが、気持ちの良い挨拶ができていないように思われます。言葉遣いについても良いと思います。今後も、地道な指導をお願いします。 ・ICTの活用を始め、個に応じた指導ができています ・小規模ならではの、一人一人に心配りがされており、運動会等においても児童に目を向け、助け合う人間関係ができています。 ・人権教育にも熱心に取り組まれておられ、少ないながらもよい人間関係づくりができています。 ・例年の米作り・さつまいもの栽培活動に加え、「星の郷」の見学や炊き込みご飯づくり等、有意義な活動ができたように思います。今後も、子どもが示したことへの取組を広げていってください。
	基本的な生活習慣の定着	○ 気持ちのよい挨拶や、正しい名前の呼び方、時と場、相手に合った言葉遣いをしようとする態度を育てることができた。	3.3	3.9	3.7		
	望ましい行動様式	○ 生活目標・安全目標に基づいて、指導の重点化を意識して指導を行った。	3.5	3.9	3.7		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	○ 学習意欲の喚起と個に応じたきめ細かな指導の充実により、基礎・基本を定着させることができた。	3.3	3.9	3.8	○ 基礎・基本の定着については、教職員は0.8下がっているが児童と保護者は0.1上昇した。低学年からの積み重ねを大切に、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていく。 ○ 家庭学習の充実に関しては、教職員が0.6、児童は0.2、保護者は0.5下がっている。保護者からの要望により個別に対応している状況があるが、家庭学習の習慣化について啓発を行ったり児童の学習状況について丁寧に情報提供をしたりして家庭の理解と協力を仰いでいく。 ○ ICTを活用した授業改善については、教職員が0.5、保護者が0.1下がった。ICT支援員を計画的に活用したり、ICT支援員からの提案資料を有効に使ったりして授業改善に努める。 ○ 読書活動の推進については、教職員が0.6、児童は0.2下がったが保護者は0.1上昇した。個に応じた読書啓発と各教科と関連させた読書活動を継続し、図書館利用の機会も増やしていく。	・下校時はどうしても一人で下校する児童を見受けます。地域の方の見守りが重要だと思いますので、ことある機会に取り上げてください。 ・近い将来来るであろう南海トラフ地震を想定した備えも必要かと思えます。 ・コロナの5類への移行により地域人材を活用した様々な取組が行われ、その様子がコミスク便りにより地域へ発信され、地域の方々への小学校への関心が高まっています。児童が減少しても、このような発信を行っていけば地域との連携は保たれると思います。 ・地域の一人としてコミスク便りをとても楽しみにしています。年寄りも多いので紙での配布はありがたいです。 ・今年度は、秋祭りに子どもたちが参加できる子どもみこしや獅子舞等が充実されて非常に良かった。また、運動会も4年振りに地域合同で実施できて良かった。 ・大型ディスプレイ等を使った授業は分かりやすく、より効果的と思われる。 ・タブレット端末、SNS等の安全教室を開催し、使用責任を充実させている。 ・上林小では地域の名所とそれにつまわる逸話や先人の功績等を教職員と児童が協力して調査・編纂し冊子にまとめられました。文字に記した将来にわたる貴重な資料です。改めて、その御努力に感謝申し上げます。 ・(夏休みのPTA活動)教育キャンプの内容を検討した際に、先生方は皿ヶ嶺に登りたい意見が多かったが保護者の意見が少なかったのが気になった。(世帯の世代交代なのか、地域とのつながりが希薄になっているのか) ・ふるさとめぐりが充実していたのがすばらしいと思います。 ・今後も地域人材を十分に活用し様々な取組を実施することにより、地域に愛着を持ち、将来地域に残ってくれる児童がいれば嬉しいです。
	家庭学習の充実	○ 「家庭学習の手引き」を有効に活用し、家庭の協力を得ながら指導に当たった。	3.2	3.6	3.3		
	ICTを活用した授業改善	○ ICT機器を有効に活用し、「分かる・できる・楽しい」授業への改善に取り組んだ。	3.3	3.9	3.5		
	読書活動の推進	○ 読書を通して、言葉を学び、感性や表現力、創造力を豊かなものにするため、読書環境の整備に努めた。	3.0	3.7	3.7		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	○ 道徳の授業の充実や、実践に結びつく道徳教育・人権教育に教育課程全体を通して取り組んだ。	3.8	3.9	3.7	○ 道徳教育の充実については、児童は0.1下がり、保護者は0.1上昇している。道徳の年間指導計画と全体計画を見直し、教職員共通理解のもと改善しながら教育課程全体を通して道徳教育を行っている。今後も、人との関わりの中で子どもたちの人権感覚を磨いていくようにしたい。 ○ 仲間づくり・集団づくりについては、教職員と児童は0.1下がり、保護者は0.2上昇した。児童間でトラブルが起きた際には、教師が双方の話を十分聞いた上で状況に応じて解決に向けての話合いをさせるなど、児童同士で考えさせるようなコーディネートに努めている。 ○ 健康づくり・体力づくりについては、教職員は0.1、児童と保護者は0.2下がった。体育科の導入としてITスタジアムの競技を取り入れて記録の向上を目指したり、保護者参加型のなわとび大会を計画したりするなど、子どもに目標を持たせて体力作りに取り組んでいる。	
	仲間づくり・集団づくり	○ 相手の気持ちを理解し、互いに認め合い、協力し、助け合う人間関係づくりを推進した。	3.7	3.9	3.8		
	健康づくり・体力づくり	○ 早寝早起き朝ごはん、うがいや手洗い、歯磨き等の習慣を身に付けさせるとともに、児童の体力についての現状や課題を把握し、体力向上に関する指導を推進した。	3.7	3.8	3.4		
特別支援教育	特別支援教育の充実	○ 授業のユニバーサルデザイン化を図るなど、特別支援教育の趣旨を生かしたよく分かる授業展開に努めた。	3.3	3.9	3.6	○ 特別支援教育については、教職員は0.7、保護者は0.1下がっているが、児童は0.1上昇した。今後も、「できる」「分かる」喜びを実感させる授業改善を行い、コーディネーターを中心に児童の特性に応じた指導について情報共有を継続していく。	
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	○ 家庭・地域・関係諸機関との連携による登下校の安全確保や不審者対策を実施し、安全で安心できる学校づくりができた。	2.8	3.7	3.5	○ 登下校の安全確保については、教職員は0.6、児童は0.3、保護者は0.1下がっている。教職員の中には見守り活動に参加できにくい事情があり、自己評価が低い傾向がある。健全育成の会や学校運営協議会などでも登下校について取り上げ、地域全体で取り組むようにしていきたい。 ○ 防災教育の充実については、教職員は0.3、児童は0.1下がったが、保護者は0.1上昇した。予告無しや市や県の避難訓練を含め、多様な状況下での避難訓練を実施した。地域の防災無線によるアラームにも瞬時に反応し、適切な危険回避行動をとることができている。また、東温市危機管理課の方を招いてマイ・タイムラインの作成や避難所での配慮事項等について学ぶ機会を設定した。 ○ 施設・設備の安全管理については、教職員は0.3、児童と保護者は0.1下がった。今後も安全点検で見付かった箇所への早期対応と危険箇所の早期発見に努めたい。	
	防災教育の充実	○ 防災マニュアルを策定し、日々の教育実践に役立てるなど、「みんなの命をみんなで守る」「自分の命を自分で守る」児童の育成に努めた。	3.5	3.9	3.8		
	施設・設備の安全管理	○ 安全点検の徹底による潜在危険箇所の早期発見・完全除去及び防災・防犯につながる備えの確認をした。	3.7	3.8	3.5		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	○ 地域の人材を講師として活用したり、運動会、学芸会、稲作等の行事運営をPTAや地域と協力して行ったりするなど、学校運営協議会と連携して地域に開かれた教育活動を推進した。	4.0	4.0	3.9	○ 学校運営協議会と連携し、地域人材を積極的に活用した教育活動を実現することができた。地域の方が児童を大切に思ってくれて温かく関わってくださり、学校の雰囲気や児童の人格形成に良い影響を与えている。教科横断的なカリキュラムマネジメントを充実させ地域の方の協力のおかげで、ふるさとを誇りに思う児童が育っている。 ○ 地域とともにある学校づくりを目指し、今年度も保護者・地域にアンケートを実施した。アンケート結果をもとに学校運営協議会で熟議したり、コミスクだよりを全世帯に発行したりするなど、学校と地域が一体となって子どもを育てるつながりの醸成を図ることができた。	
	情報の共有化	○ 学校だより(学年だより)、ホームページを工夫・充実し、保護者に児童の様子や学校の方針を理解してもらえるよう努めた。	3.7	3.9	3.9		
特色ある学校づくり	緑の少年団	○ 緑の少年団活動への効果的な指導を通して、地域の美しく豊かな自然環境を守ろうとする態度を養うことができた。	3.7	3.9	3.8	○ 緑の少年団活動では、全校児童で森林公園へ行き、手作りの環境ポスターを自らの手で貼ったり、地域の方と公園の清掃を行ったりした。また、昨年度不作であったさつまいも畑の場所を変更し、栽培活動も充実させることができた。	
	栽培活動	○ 植物や野菜等の栽培活動を充実させ、自然を愛護し、自他の生命を大切にしていこう態度を育てることができた。	3.5	3.9	3.9		
施設・設備の充実	施設・設備の効果的な活用(ICTの有効活用)	○ 教育効果を高める環境整備と施設・設備・備品の有効活用を行った。	3.7	3.9	3.5	○ 大型ディスプレイの導入により、複式学級の授業においても両学年に分かれてICT機器を効果的に活用した学習を展開することができた。 ○ 児童一人一人の学びの成長過程が分かる掲示に努め、地域の方との触れ合いや感謝の思い等が実感できる環境づくりを行っている。また、地域の人材コーナーも設置し、地域の方に見守られながら子どもを育てる環境を整えている。	
	学習・生活環境充実への取組	○ 一人一人を大切にしたい掲示や安らぎと潤いのある環境づくりに努めた。	3.7	3.9	3.9		